二〇一九年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【修士課程】　**専門科目**　演劇映像学コース　※解答は別紙

（縦・横書）

各自が専攻する領域の問題を解答しなさい。

問題は、

「日本演劇」（2～5頁）

「西洋演劇」（6～7頁）

「舞踊学」（8頁）

「映画学」（9～11頁）

の四領域である。

二〇一九年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【修士課程】　専門科目　演劇映像学　コース　※解答は別紙（縦・横書）

日本演劇

◆問題1または問題2のいずれかを選び、それぞれの設問に答えなさい。

（日本演劇1／4）

問題1　以下のA・B・Cの設問すべてに答えなさい。

A　次の人物の演劇史上の功績・位置づけについて、簡潔に紹介しなさい。

① 味摩之
② 観阿弥
③ 竹本筑後掾
④ 並木宗輔
⑤ 初代並木正三
⑥ 五代目松本幸四郎
⑦ 四代目市川小団次
⑧ 五代目尾上菊五郎
⑨ 小山内薫
⑩ 北條秀司

二〇一九年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【修士課程】　**専門科目**　演劇映像学　コース　※解答は別紙（縦・横書）

日本演劇

（日本演劇2／4）

問題1（つづき）

B　掲出の文を読んで、以下の問いに答えなさい。

一、①能の本を書く事、この道の命なり。極めたる才学の力なけれども、ただ、工みによりて、よき能にはなるもの也。

大かたの風体、序破急の段に見えたり。ことさら、脇の申楽、本説正しくて、開口より、その謂れと、やがて人の知るごとくならんずる来歴を書くべし。さのみに細かなる風体を尽くさずとも、大かたのかかり直に下りたらんが、指寄り花々とあるやうに、脇の申楽をば書くべし。又、番数に至りぬれば、いかにもいかにも、言葉・風体を尽くして、細かに書くべし。

②仮令、名所・旧跡の題目ならば、その所によりたらんずる詩歌の、言葉の耳近からんを、能の詰め所に寄すべし。為手の言葉にも風情にもかからざらん所には、肝要の言葉をば載すべからず。なにとしても、見物衆は、見る所も聞く所も、上手をならでは心にかけず。さるほどに、棟梁の面白き言葉・振り、目にさるぎり、心に浮かめば、見聞く人、すなはち感を催すなり。これ、第一、能を作る手立なり。（略）

しかれば、、よき能と申は、③本説正しく、めづらしき風体にて、詰め所ありて、かかり幽玄ならんを、第一とすべし。風体はめづらしからねども、わづらはしくもなく、直に下りたるが、面白き所あらんを、第二とすべし。これは、おほよその定めなり。ただ、能はひと風情、上手の手にかかり、便りだにあらば、面白かるべし。番数を尽くし、日を重ぬれば、たとひ悪き能も、めづらしくし替へし替へ色取れば、面白く見ゆべし。されば、④能は、ただ、時分・入れ場なり。悪き能とて捨つべからず。為手の心づかいなるべし。

ただし、ここに様あり。善悪にすまじき能あるべし。⑤いかなる物まねなればとて、仮令、老尼・姥・老僧などの形にて、さのみ狂い怒る事あるべからず。又、怒れる人体にて、幽玄の物まね、これ同じ。これを、まことのるせ能、きやうさうとは申べし。

設問1　この資料の書名と著者名を記しなさい。

設問2　同じ著者の著作を、5つ記しなさい。

設問3　傍線部①の意味を、言葉を補って、詳しく説明しなさい。

設問4　傍線部②の実作例を、具体的に詳しく記しなさい。

設問5　傍線部③の意味を、言葉を補って、詳しく説明しなさい。

設問6　傍線部④の意味を、言葉を補って、詳しく説明しなさい。

設問7　傍線部⑤の意味を、言葉を補って、詳しく説明しなさい。

二〇一九年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【修士課程】　**専門科目**　演劇映像学　コース　※解答は別紙（縦・横書）

日本演劇

問題1（つづき）

C　次の作品について、設問に答えなさい（通読の便のため、節章、捨て仮名等を省略し、適宜に漢字を宛てたところがある）。

いく間も。遠き長局。部屋の戸明て。内入も。常に替りし顔色を。悟らせまじと癪にまぎらし。正直はさつきにから。持病の痞がおこつたわいの。夕まゝも給たふない。いつもの通りさすつてたも。ハイとお初が指寄て。先お枕を遊ばしませ。お風召なとかい巻を。かひ〳〵敷も立廻り。お癪のおこるもお道理様じや。それに付ても軽い者は奉公迚も気さんじに。旦那様やら御家来やら。お友達見るやうに。お心安ふなさつて下さりや。病い気もござりませぬ。ヲヽいやる通り。上々方の宮仕へは。いかふしんきを遣ふ物。そなたの爺御は武士と聞たが。世が世ならどのやうな御奉公も仕やる筈を。町人の娘のわしが遣ふといふは嘸や嘸心うくも思やらふ。とかく人は時節を待。花咲春を待のが肝心。ヲヽ勿体ない事御意遊ばす。何事も大旦那のお咄しに御存じならん。私親子が受し御恩は。口にも筆にも尽されませぬ。せめてもの御恩報じ。ぶ調法な此私が。お傍でどふぞ御奉公とお願申。此春から初奉公の御面倒。有がたふ存じまする。其大切なお前様が。御病身なを案じ申。どふぞお煩いの出ぬ様にと存じますが。年はも行ぬ私が口から。ませた事をいふ小しやく者と。お呵も有ふけれど。兎角に人は気を晴して。物にくつたくをさへ致さねば。煩いは出ぬ物じやと。巧者なお医者の申されましたが。其御養生には物見遊山。アノ。お前様も芝居はお好でござりませふなア。ヲヽ。成程わしも芝居は好じやが。そなたも定めて好じや有ふが。イヤモウ好のだんではござりませぬ。そふ申す中かぶきより操芝居の浄瑠理が。私は面白ふござります。ヲヽ夫れなれば咄しが合ふ。わしもきつい浄るりが好。併たま〳〵の宿下りより外は。浄るり本で楽しむ計。私もお屋敷へ上りませぬ其前は。よふ見物に参りましたが。当り浄るりも多い中に。アノ忠臣蔵の浄るり程。面白いのはござりませぬぞへ。ヲソリヤ誰も同じ事。アノ師直頬の憎さ〳〵。イヤ申。お前様のお心には。塩冶殿の師直へ切懸られし其所は。尤な事に思し召かへ。但し又。不了簡な事に思し召が。サマア何と思し召ます。さればの。御短慮には有たれど。意恨に意恨重る上は。御尤にも有ふかいの。

（日本演劇3／4）

設問1　この作品と作者の名前を挙げて、知るところを述べなさい。

設問2　掲出部分は、どのような場面か、前後の経緯を含めて詳しく説明しなさい。

設問3　この系統の作品の、文楽および歌舞伎での上演について詳しく述べなさい。

二〇一九年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【修士課程】　**専門科目**　演劇映像学　コース　※解答は別紙（縦・横書）

日本演劇

問題2　次の資料は『傀儡子記』の一節である。これについて**設問1～5**に答えなさい。

（日本演劇4／4）

①傀儡子者、無定居、無当家、穹廬氈帳、逐水草以移徙、頗類北狄之俗、

②男則皆使弓馬、以狩猟為事、或跳双剣弄七丸、或舞木人闘桃梗、能生人之態、殆近魚竜曼蜒之戯、変沙石為金銭、化草木為鳥獣、能□人目、

③女則為愁眉、啼粧、折腰歩、齲歯咲、施朱傅粉、倡歌淫楽、以求妖媚、父母夫賀不誡□、丞雖逢行人旅客、不嫌一宵之佳会、徴嬖之余、自献千金繍服錦衣、金釵鈿匣之具、莫不異有之、

不耕一畝田、不採一枝桑、故不属県官、皆非土民、自限浪人、上不知王公、傍不怕牧宰、以無課役、漁一生之楽、

夜則祭百神、鼓舞喧嘩、以祈福助、

（『日本思想大系』古代中世芸術論）

設問1　傍線部①について、一部に送り仮名を加えて漢字かな混じり文に改め、意味を述べなさい。

設問2　傍線部②の具体的な芸態について、記されているところに従って述べなさい。

設問3　傍線部③について、どのようなありわいか、知るところを述べなさい。

設問4　この資料の著者とその芸能史的な業績について述べなさい。

設問5　この資料に記された男女の芸能者について、歴史的な意義を述べなさい。

２０１９年度　　早稲田大学大学院文学研究科　　入学試験問題

【修士課程】　　**専門科目**　　演 劇 映 像 学　　コース　　※解答は別紙（横書）

西洋演劇（問題用紙全２枚、全５問）

I. 以下に示す人物のなかから５人を選び、それぞれの人物が活動した時期（世紀）、地域（国名ないし地方名）を記しなさい。また演劇史においてその人物が持つ意味を簡潔に述べなさい（各５行程度）。

1) アリストテレス
2) エルフリーデ・イェリネク
3) カルロ・ゴルドーニ
4) ベン・ジョンソン
5) コンスタンティン・スタニスラフスキー
6) エルヴィン・ピスカートア
7) プラウトゥス
8) ジャン・ラシーヌ

II. 以下に示す語のなかから５つを選び、それぞれの語が演劇学において意味する内容を簡潔に説明しなさい（各５行程度）。

1) アゴン
2) コンメディア・デッラルテ
3) 象徴主義
4) 聖体祭
5) 電気照明
6) 古典主義
7) フェスティヴァル
8) ポストドラマ演劇

III.　以下に掲げるのは、ディオニュソス劇場の模式平面図です。これを見て、以下の問いに答えなさい。

※この図は、著作権の関係により掲載ができません。

1)ディオニュソス劇場について知っていること、およびこの図から読みとれることを記しなさい(箇条書きでよい、行数自由)。

2)「イタリア式」と一般に呼ばれる劇場とディオニュソス劇場に典型的に見られる劇場との相違点と共通点を記しなさい（箇条書きでよい、行数自由)。

3) ディオニュソス劇場の時代の演劇と劇場のあり方は、近代以降の演劇と劇場のあり方にいかなる影響を及ぼしてきたか、述べなさい（行数自由)。

IV.　演劇にとって「一回性」とは何を意味するのだろうか。具体例を挙げながら論じなさい（行数自由)。

V.　演劇は公的支援なしには存続し得ない芸術だろうか。具体例を挙げながら論じなさい（行数自由)。

（以下余白）

舞踊学（問題用紙　全１枚）

問１）次の用語の中から３つ選び、詳しく解説しなさい。
(1) aplomb
(2) ballet de cour
(3) enchaînement
(4) contraction and release
(5) contact improvisation
(6) 第四の壁

問２）次の人物の中から３人選び、詳しく解説しなさい。
(1) Pierre Beauchamp(s)
(2) Fanny Elssler
(3) Александр Константинович Глазунов (Aleksandr Glazunov)
(4) Merce Cunningham
(5) Trisha Brown
(6) 室伏鴻

問３）次の作品の中から３つ選び、詳しく解説しなさい。
(1) Robert le diable
(2) Coppélia
(3) Баядерка (La bayadère)
(4) Fancy Free
(5) West Side Story
(6) 禁色

問４）日本を代表するバレエ団をひとつ挙げ、その特色を述べなさい。

問５）最近、日本ではコンテンポラリーダンスが衰退してきたと言われるが、その原因は何かについて、自分の考えを述べなさい。

問６）あなたが最も優れた舞踊作品だと思うものをひとつ挙げ、そのどこが優れているかについて詳しく説明しなさい。

（以下余白）

２０１９年度　　早稲田大学大学院文学研究科　　入学試験問題

【修士課程】　**専門科目**　　演 劇 映 像 学　　コース　　※解答は別紙（㊨書）書）

[映画学]

映画学の問題は問１から問３まである。３題すべてに答えること。　　[映画学　1/3]

[問１]

下記の７つの事項の中から４つを選び、その概要を簡潔に説明しなさい（各５行程度で）。

① ユナイテッド・アーティスツ
② ヴィットリオ・デ・シーカ
③ シネラマ
④ ジガ・ヴェルトフ集団
⑤ ニュー・ジャーマン・シネマ
⑥ 『ハワイ・マレー沖海戦』
⑦ たむらまさき（田村正毅）

[問２]

次の英文を和訳しなさい。なお、文中の Ihering とはドイツの演劇批評家 Herbert Ihering (1888-1977)のことである。また、引用文の出典表示については和訳する必要はない。

Looking ahead following the news that Emil Jannings was bound for Hollywood, Ihering forecast that he too would be "absorbed" by the American system. What was the subtle trap set by Hollywood? For Ihering it was erasure of the distinction between filmic adeptness and artistic devotion which characterized the German cinema.

> The development of inspiration, the enrichment of a personal approach has not kept pace with the necessary increase of ability in the filmic craft. For the American mastery of the craft and filmic inventiveness are identical. For Germans this is not so at present. They conform technically and thereby lose their personal imagination. [Ihering, *Von Reinhardt bis Brecht*, vol. II, pp. 508-509.]

In one respect Ihering was simply warning against the excess routine for which American production was infamous.

> (Thomas J. Saunders, *Hollywood in Berlin*, Berkeley and Los Angeles, University of California Press, 1994, p. 208.)

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。
Republished with permission of University of Califonia Press,
from Hollywood in Berlin, Thomas J saunders, 1994;
permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

［問３］

次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

最近「純粋映画」或は「絶対映画」の声が高い。

彼等純粋映画（こゝでは混雑を懼れて「絶対映画」をもすべて「純粋映画」の名称を以て述べることにする）を主張する人達は云う。

――現在世間に行われている所謂映画は本当の映画、純粋の状態に在る映画ではない。それは絵画的であったり、物語的であり（或は小説的であり）、演劇的であっても、純粋に映画的ではない。われわれは純粋の状態に在る映画を欲する。映画が何であるよりも先づ第一に映画であることを欲する。それがためには映画でないあらゆるものを映写幕から除き去らねばならない。具象的であるもの、又すべて意味ありげな文学を排する、われわれはたゞ光と影から生ずる視覚的シムフォニイを求める。それは光と影を時間的に結びつけたオオケストレイションである。――

われわれもこういう純粋映画主張者の言が現行の映画に関して考察される限り、如何にも正しいと思う。

〔・・・〕

だが純粋――純粋――純粋とは？

僕は純粋映画主張者の言葉を一概にしりぞけるものでは勿論ない。現在の映画が果して本当の映画であるか、ないか、など云うことは自明の事柄である。

然し、一体、映画が純粋の立場に在るとき、それは彼等純粋映画論者の云うようなものであろうか。

映画に於いての純粋とは何であろうか。

〔・・・〕

先づ第一に映画の発生に就いて見たい。映画が如何にして生まれたかを知ると云うことは決して徒爾ではない。現在の映画を見、将来の映画を考うる時に当って、過去の映画の発生過程を知るということは、やがて現在、将来の映画に就いて何等かの大きな暗示を与えるものであるということを僕は信ずる。

1895年に映画は生れた。フランスのリュミエエル兄弟の作る所である。そして「リオン市、リュミエエル工場の出口」なる映画は映画の誕生を示す第一声であった。映画は「リオン市リュミエエル工場の出口」より生れた。映画の発生は実写映画から初まった。やがて当時の人達を驚かせた「ヴァンセンヌの汽車到着」も同じく実写映画であった。僕はこゝで強調したい。映画の初めは実写であったと。純真無垢の赤ん坊であった映画は実写であったと。

凡そ実写映画の良さは今更僕がこゝで説く迄もない。多くの人達に依って唱導されている所である。自然の風物、人間社会の諸相、これ等が一度レンズを通して、かの非人間的な対物レンズの把握に依って、映写幕に映し出さるゝとき、僕達は全然新らしい感激を受けないでは居られない。それは断じて単なる実写ではない。それは――映画だ。

２０１９年度　　早稲田大学大学院文学研究科　　入学試験問題

【修士課程】　**専門科目**　　演 劇 映 像 学　　コース　　※解答は別紙（㊨書）書）

［映画学　3/3］

映画がその初め、実写であり、現在の映画にわれわれは実に莫大な実写的魅力を感ずるとすれば、僕がこゝで云おうとする所――即ち純粋映書とは？　に対する答えも、略定って来るわけである。

これはある意味に於いてパラドクスに取られ易い、又そう取られても僕はかまわない。が、映画初まってからの大きな問題、「純粋なる映画とは？」に対する一つの答えとして、これは、かなり暗示的な事実だと僕は信じているのである。

即ち僕が考えている所によると、純粋映画なるものは実写的「表示的」映画、つまり今現に映画常設館に於いて映し出されている映画ではないか、と云う事になりそうである。僕はこう断言することを嫌う。併し発生論的に考えて見て、映画というものが全然、今までとは別個のものとなって天上せざる限り、映画――実写、という開係は離るべからざるものと考える。試みに映画的興味を考えるのに実写的興味を度外視して見るがいゝ。そこにあるものは如何に落莫たるものであるか。われわれが、われわれより偉大な完成物で在る自然を――あらゆる自然的現象を、人間の力である科学的方法に依って、これを虜とし、更に芸術的感性に依って、之を経て、再現する、この大きな芸術的魅力を失うことは大きな悲しみである。

僕は云おう。実写的、表示的、描写的映画はやはり映画の純粋なるものである、と。

そして他の所謂純粋映画、それは、この実写的映画とは異った、同じく映画的芸術の一つであるが、かなりそれ自身で独立性を持った一つのジャンルである、そしてそれは別な意味でやはり純粋な映画であるだろう、と。

従って――前者が純粋化されて、後者になるのではなく、又、前者は後者にならねばならぬ、などいうことは云う迄もなくあり得ないのである、と。

（飯島正「「純粋映画」論」、『シネマのＡＢＣ』、厚生閣書店、1928年、23～29頁所収。原文の旧字体・歴史的かなづかいは新字体・現代かなづかいに改めた。）

設問１　下線部について、実例を挙げて簡潔に説明しなさい。（５行程度で）

設問２　映画の自律性や独自性を求める主張は、映画史や映画理論史を通じて時に信奉され、時に批判されてきた。この文章の内容を踏まえて、この問題をめぐる自らの考えを述べなさい。（２０～２５行程度で）

（以下余白）

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

演劇映像学

［演劇映像学］

＊選択分野に○を記入すること。

- 日本演劇
- 西洋演劇
- 舞踊学
- 映画

＊日本演劇を選択するものは別紙の縦書の解答用紙を使用のこと。

総　点

ここから記入すること

（裏へ続く）

（次頁へ続く）

———これより先の余白には絶対に記入しないこと———

ーーーーーここから記入すること

（裏へ続く）

———これより先の余白には絶対に記入しないこと———

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

演劇映像学
日本演劇

総　点

——ここから記入すること——

（裏へ続く）

（次頁へ）

――これより先の余白には絶対に記入しないこと――

ここから記入すること

（裏へ続く）

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——